

平成24年度 石川県水産振興協議会 次第

平成25年3月18日（月）
13:30～15:30
県庁11階1109会議室

1 開 会

2 挨 拶

3 議 題

- (1) 漁業士の認定について
- (2) 県産魚の利用拡大に向けた取り組み状況について
- (3) 漁業就業者の確保育成に向けた取り組み状況について
- (4) 平成24年度水産総合センター研究成果等について
- (5) 意見交換
- (6) その他

4 閉 会

平成24年度石川県水産振興協議会における委員からの主な意見

- 1 漁業士の認定について
漁業士認定制度の概要、認定候補者8名の概要について説明
 - ・特に質問や意見がなく、漁業士として適当とあるとして答申する旨を決議
- 2 県産魚の利用拡大に向けた取り組み状況について
学校給食への県産魚の利用促進に関する取り組み状況について説明
 - ・単独の魚種での原魚確保が困難であれば、複数の魚種を組み合わせる供給出来る方策を検討すべき（谷本委員）
 - ・子供の魚嫌いは保護者に起因するところが大きく、保護者に対する食育や魚食普及が必要（松川委員）
 - ・県漁協女性部では、これまでも保護者（PTA等）を対象とした食育や魚食普及の取り組みを行っており、今後も出来る限りの協力をさせていただく（平野委員）
 - ・水産物の食育や魚食普及は、もっと一般県民に対しても推進すべき（真舘委員）
 - ・学校給食で県産魚の利用を持続させるためには、教育現場の負担軽減やメリット感が重要であり、利用意識を高揚させる企画やフォローが必要
 - ・県漁業士会では、出前講座への会員派遣が有意義であったと考えている（達委員）
- 3 漁業就業者の確保育成に向けた取り組み状況について
新規就業者の確保や既存漁業者の能力向上に関する取り組み状況について説明
 - ・近年、学校給食においてもノロウイルスによる食中毒が発生しており、生産現場の漁業者に対しても啓発が必要（松川委員）
- 4 平成24年度水産総合センター研究成果等について
センターが行った研究成果のうち、3件について説明
 - ・イカの生息水深等や近年のイワシ資源の動向、マガキ種苗の抑制方法等について質問があったが、今後への意見や要望等はなかった。
- 5 意見交換
特にテーマを設けず、委員からの意見を聴取
 - ・漁村地域の活性化のためには、女性部や青年部の活動の場を確保することが必要（新木委員）
 - ・食料としての水産物の重要性や大切さをもっとアピールするべき（松川委員）
 - ・子供達が漁業の現場を学べる機会を増やす取り組みが必要（真舘委員）
 - ・子供ばかりではなく、シニア世代に対する食育や魚食普及も効果的（筆委員）
 - ・漁業者ばかりではなく、地域住民をも巻き込んだ食育や魚食普及は、地域の活性化にも効果的（新木委員）
 - ・水産業こそ6次産業化の取り組みが効果的（高森委員）
 - ・近年、増加傾向にあるサメ被害への対策をお願いしたい（達委員）
- 6 その他
事務局からの連絡事項等については特になし